

Tabula@rasa

第5回大学図書館学生協働交流シンポジウム活動報告
梅光学院大学図書館学生広報誌 号外



目次

P.2 目次

P.3 シンポジウム日程

P.4～P.7 活動報告



シンポジウム日程

1日目:9月8日(火)会場/梅光学院大学キャンパス

13:00~13:10	開会挨拶(スタージェスホール)
13:10~14:20	講演(スタージェスホール) 共読サポーターズとつくる人・本・学びの新しいカタチ —リコメンドが循環するアクティブキャンパスを目指して— 講師:帝京大学メディアライブラリーセンター グループリーダー 中嶋康氏
14:40~15:50	ワークショップ(スタージェスホール) 本のバトンをつなげ!!「共読ワークショップ」 これであなたもブックアスリート 講師:帝京大学メディアライブラリーセンター職員の皆様
16:00~17:30	ポスターセッション(図書館) テーマ「今・わが大学のイチ押し活動 未来・これからしてみたい活動」
17:40~18:00	ハンドベル演奏(スタージェスホール)
18:10~20:00	交流会(カフェテリア)

2日目:9月9日(水)会場/下関市生涯学習プラザ

9:30~11:30	ワールドカフェ(多目的ホール 別名宙のホール) 繋がりを生み出す図書館となるために、あなたは何をしますか?
11:40~11:50	閉会式
12:00~12:30	希望者のみ下関市立中央図書館見学
12:30~14:00	希望職員のみ事例報告・意見交換会(プラザ内料理教室)

活 動 報 告

今回、多くの地域から図書館に携わる人々が集まり話し合うことができ、大変良かったと感じています。ポスターセッションやワールドカフェにて自大学の成果や活動を話し、その上で新しいアイデアを付け加えたり、違う大学の活動と組み合わせたりするなど皆さんが活発に意見を交換していて良かったと思いました。この活動が全国大学図書館の活性に繋がることができればと祈っております。

図書館サポーター長 3年 長谷川 優子

ワールドカフェにおいて、島根大学の職員が、図書館サポートの学生の数が増えて活動しやすくなった、という話をされていました。その学生サポーターたちは、小さな班ごとに分かれていて、役割分担がはっきりしています。学生の勉強をサポートする班、図書館イベントを計画する班など担当が分かれています。入部希望の学生は、興味のある班に所属し、その班と学生サポーター全体で取り組む活動の2種類を経験します。

多くの学生が図書館活動に参加しやすい仕組みになっていて、とても参考になりました。私の大学の図書館サポーターでは、テーマ展示棚に本やPOPを展示する活動や図書館・サポーターの広報、高校生への大学案内など様々な活動があります。サポーターに興味があるけれど入部する勇気がない、陰ながら図書館サポーターを応援しています！という学生が学内に少なくないので、そういった人たちに呼びかけて、私たちの活動の一部を手伝ってもらいたいと思いました。サポーターと図書館利用者の交流の場が生まれるし、参加呼びかけ自体がサポーターの活動の広報にもなります。サポーター自身も仲間が増えた気がして心強くなる、まさにサポーターのサポーター計画、と言えますね。

ワールドカフェにおいて、島根県立大学の学生から、自分の大学図書館は松江市の港に書架を設置しているという話を聞きました。船を待つ学生たちに本を読んでもらうためです。港では1, 2時間、船が来るまで待っていなければなりません。その間、学生たちは、書架にある本を取って読んでいます。

書架をどのように設置しているのかは不明ですが、とても印象に残る話でした。学生が本の存在を知る機会ができて良いです。というのは、本の存在を身近に感じることで自分が、読書を促す力を持っているからです。梅光学院大学では、東館の廊下やS-1教室前の通路に設置したい所です。手に取ってもらわなくても、多くの学生が、大学に来る度に、本の存在を意識する一瞬を持つことができると思います。

図書館サポーター副長 3年 植高 公朋

シンポジウムで共読を実際に体験するというので、本の帯作りをしました。いかに、内容が気になるようにキャッチコピーを考えるかというのが面白かったです。

目次読み、本文読みなど、時間が短くても人数が集まると個性的な帯が出来ました。また、知らない人同士でも帯のフレーズについて話したりして、交流のきっかけになりました。

図書館サポーター 3年 安部 咲貴子

今回のシンポジウムは、ポスターセッションで去年よりパワーアップした各大学の活動に刺激を受けました。私たちが行ってきた POP 作りやビブリオバトルだけでなく、クイズラリーや脱出ゲームなど、新しい切り口で図書館や、図書館の本に興味を持ってもらう活動があるのか、と感じました。図書館サポーターは団体としての規模が小さく、私たちだけで出来る活動も限られてしまう所があります。しかし、規模が小さいからこそ、できる活動もありますし、梅光学院大学の図書館だからこそ、本の面白さや図書館の楽しさを伝えられる活動があるのではないかと思います。図書館サポーターとして様々な活動を行ってきましたが、今一度、図書館サポーターと、梅光学院大学図書館の強みを探せば、新しい活動だけでなく、今まで続けてきた活動の強化に繋がるのではないかと思います。今年で最後のシンポジウムとなってしまいましたが、今回学んだことは忘れないようにしたいと思います。

図書館サポーター 3年 木村 佳子

シンポジウムで思い出深かったのは、「ワールドカフェ」です。ワールドカフェでは、他大学の学生や先生と班を組み、「図書館で人が繋がるには」というテーマについて論じました。そして別の班に移り、そこでもテーマについて論じ、元の班に戻ったあと、話し合った内容を共有。他大学の図書館で行っている取り組みや図書館の役割についての考えなどに触れることは、とても良い勉強になりました。なかなか他大学の図書館との交流の機会は無いから、こうして話し合えることは良い刺激になりました。

図書館サポーター 3年 角 仁美

シンポジウムの最後のプログラムに「ワールドカフェ」というものをいつも行っています。「ワールドカフェ」とは喫茶店で気軽に話すように話し合いをするという形式で、テーブルごとにホストがつくことが通例になっています。

今回は図書館サポーターと学生有志がそのホストの役を務めました。シンポジウム開催前には、渡辺先生の指導の下、サポーターと学生有志でホストの事前練習を重ねました。このホストというものが中々難しく、話し合いのかじ取りをそれとなくやらなければなりません。どのテーブルも練習のおかげで話のかじ取りを上手くこなせていたと思います。来年からもシンポジウムは続くと思いますが、上手くバトンをつなげたように思いました。

図書館サポーター 3年 藤田 京介

今年が初めての図書館シンポジウムでした。私は2日目のワールドカフェが印象に残りました。第1ステージに2名の職員さんがいたこともあり、会話が発展しました。テーブルホストの練習をした甲斐あって、沈黙することも少なく、初対面であるのにとっても良い雰囲気でした。「人と人をつなぐ図書館」ではなく図書館は人とつながらなくていい場所だといった意見や、この場にいるメンバーとのつながりを大切にしたいといった意見もでて、有意義なワールドカフェでした。3グループだけの発表班にも選ばれましたが、他大学の学生さんと協力して無事発表できました。今回の経験は、この先生かしていきたいと思えます。

図書館サポーター 2年 田中 章子

私はワールドカフェが一番印象に残りました。「図書館で人が繋がるには」をテーマに、図書館に関わる他大学の学生や職員の方と言葉を交わしました。テーマに沿った話は今後図書館司書課程を学ぶ学生として、図書館のことを考えるために、すごく勉強になりました。なかでも理系の大学で、職員の方が図書館を利用する学生が少ないことを悩んでおられた話が、印象的でした。このような生の声を聞けることはとても貴重で、働く中で生じてくる色々な問題を改めて知ることができました。

図書館サポーター 2年 藤田 千思

図書館シンポジウムは、今回は本学が舞台だった事もあって良い経験となりました。一番良かったのが、2日目のワールドカフェです。自分は、ホストを担当させていただき、本学の図書館の良き所や、これからすべき事などを話し合えて、勉強になりました。他館の活動や、その活動の元でのより良くするためのアイデアも聞く事ができ、自分が司書になった時の事も考えるきっかけになりました。

図書館サポーター 2年 松岡 由美

去年は山口大学で行われ、私も一日目途中まで参加していました。今年は図書館サポーターとしてではなく、BBCとして参加し、梅光や他の大学が自分たちの図書館の説明をしているところや、それを聞いている人たちなどを映像や写真で撮りました。撮影をしているときは、それに集中してしまうのでその時はよくわからないことが多いですが、大学によってポスターの作り方や説明の仕方、考え方なども違うのだなと思いました。

図書館サポーター 2年 三宅 由花

シンポジウムで特別印象に残ったことは、ワールドカフェ及び他大学の方とお話したことです。普段絶対に関わる機会のない東京大学の院生の方や、遠い地の教職員の方などと意見を交わし、その多角的な考えにとっても驚かされました。またポスターセッションでは活動のまとめ方、合同作業では自ら感じたことの表現力などを学べた気がします。大学図書館の発展という点でももちろんですが、今回のイベントは私自身の視野思考を広げる事が出来たと思います。

図書館サポーター 1年 大津 野の花

私が今回のシンポジウムで印象に残ったことはポスターセッションです。各大学の多様な活動内容を知り、当事者として自分たちの活動だけ見ていけばいいわけではないと感じました。これからは、自分たちの活動を第三者的視点から見てみる必要があると考えました。今回のように、シンポジウムに開催校として参加することはなかなかできない体験なので、これからの自分の活動の糧にしたいと思います。

図書館サポーター 1年 薄墨 典子

梅光学院大学図書館サポーター広報誌「Tabula©rasa」号外

発行日：2016年2月5日

編集：梅光学院大学図書館サポーター

発行：梅光学院大学図書館サポーター